

梅雨に入り雨が降って、外で遊べない日もありますが、お天気の良い日は、プールや水遊びと「キアーキアー」と声をあげながら夏の遊びを楽しんでいます！

梅雨が終われば、いよいよ夏本番！子どもたちにとっては楽しい季節ですが、一方では、この時期に流行する病気もあります。先月から各地で、手足口病が大流行し、こども園でも乳児クラスを中心として、大勢の子どもたちが、手足口病にかかりました。発熱、発疹などの症状は個々によって違いましたが、園ではようやく落ち着いたところですよ。

さて、今月は、夏に気を付けたい病気について取り上げてみたいと思います。体調管理には、十分気を付けてこの夏を親も子も元気に過ごせるようにしましょう！！

気をつけよう、夏の病気

夏かぜと呼ばれるもの…ヘルパンギーナ、プール熱、手足口病など。
夏かぜは高熱、下痢、のどが赤くはれる、体に発疹ができるなどが特徴です。
その他…水いぼ、流行性結膜炎、とびひなど。

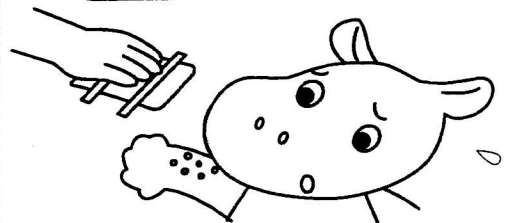
とびひ

とびひは虫さされやすり傷に菌が入り、感染する皮膚病です。膿をもった水疱ができ、つぶれてジュクジュクになり、その部分を触った手で体のほかの部分をかくと、次々広がっていきます。また、接触するとほかの人にもうつります。

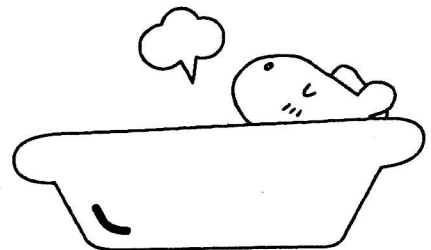
夏かぜ・プール熱

夏に流行する夏かぜの一種です。発熱、咽頭痛、結膜炎などの症状があります。プールでよく感染するため「プール熱」とも言われています。プールの後はよく目を洗い、うがいをして予防しましょう。タオルの共用はやめましょう。

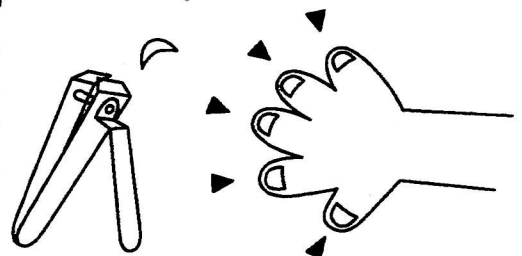
とびひにかかったら



・水疱の中の菌がほかにうつらないよう、ガーゼなどで覆い、医師の診断を受けましょう。



・お風呂は感染を防ぐため、最後にしましょう。



・爪を切っておきましょう。

夏かぜ・ヘルパンギーナ

夏に流行する夏かぜの一種で、のどの奥に水疱ができ高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みがあり、食欲がなく不機嫌になります。汗と高熱で脱水症状を起こしやすいので、水分補給を心がけましょう。高熱が出たら医師の診断を受けましょう。